

平成25年度「みえの現場・すこいやんかトーク」(熊野市)の概要

8月9日(金)に熊野市の「アグリス」熊野市総合育苗センターで「みえの現場・すこいやんかトーク」を開催しました。

当日は、「くまの花いっぱいネットワーク」の皆さん 8名の方にお集まりいただき、活動内容や活動をして良かったこと、行政へ期待していることなどについて、ご意見などをお伺いしました。



【参加者からの発言】

参加者の皆さんから、以下のようなご意見をいただきました。

- 海外研修に参加しドイツなどを訪問したとき、住民と行政が一丸となって取り組んで、花のすばらしい国になったと聞いた。住民が立ち上がることは大事なことだと思う。
- 初めは花が好きではなかったが、熊野市からの補助を受けてドイツで勉強してきたので、きれいだという感想だけで終わらせず、この花の活動をさせてもらっている。
- 遠来からのお客様に失礼があったらいけないと一定の期間集中的に花の面倒を見るのは苦勞がすごく多い。
- 花を育てる作業は大変だが、花が好きだから、一所懸命、花と格闘して頑張っている。
- 他府県や桑名など、遠くの方が来てくれるのが楽しみで、その方たちと話して、交流ができることが一番の楽しみ。

和歌山県からの観光客が、この町はすごくきれいで、熊野の方は優しい方が多いと言ってもらったときは本当にうれしかった。

専業主婦で世界がすごく狭かったが、花の活動に参加し、知り合いが増え世界も広がった。知事さんともお会いすることができて、すごく良かった。

家出をしてきたような子どもや、登校拒否の子どもが来ることもあるが、花摘みの作業を一緒に手伝っているうちに元気が出て、翌日は元気にありがとうと言われる。毎年、イギリスから来てくれる方は、太平洋戦争のとき日本軍の捕虜であったため、日本に恨みを持っていたが、オープンガーデンを巡ったり、国道の花壇を見て、恨んでいた日本人に対する思いが跡形もなく消えた。小さな花が、大きな力を発すると感じた。

花を一所懸命育てることと同時に人も大事にして、メンバーがお互い仲良くやっていきたい。目の前の人には優しく、花にも優しくと思っている。

ここの他にも花を見に来てくれるところはあるが、道が細いところや、分かりにくいところは、お客さんが少ない。小さなマイクロバスでお客さんを案内したら、もっと増えると思う。

市、県、商工会議所と住民とが、もっと連携して観光するプランを立ててやっていったらどうかと思う。

毎年、活動した成果が、積み上げていって満足感の出るようなものをこの町が末永くやっていくためには考えなければいけない。

桜並木の草刈りについて、県が年に2回行っていたが、1回になって、その1回も金額が減った。助成する金額をもう少し検討していただけないか。

耕運機の購入を考えている。助成をしてくれるところはあるが、耕運機を支給してくれるところはどこにもない。県から支援はしてもらえないか。

木とか森とか森林が自分たちの生活とどう関わっているかという講座を開いていただいて、毎年、何回か教えていただきたいと思う。

【知事の発言】

皆さんからのご意見を受け、知事からは次のような発言がありました。

最初は興味がなくても、一歩踏み出してみても、やりたくなったことは、地域の活動において、すごく大事なことだと思う。

草の根の人と人との交流という部分で心を打ち解けさせたことは本当にすごいことだと思う。

県は住民と少し遠い自治体であるけれども、取組が最終的に到達するのは県民の方なので、目の前の人に優しくすることは大切なことだと改めて思う。

花壇のあるきれいな場所を案内するために、マイクロバスをオープンガーデンだけに使うことは難しいが、例えば御浜でも紀宝でもこういうオープンガーデンがあって、その1市2町を回る季節限定のものであれば、使える予算もあるかと思う。

来年の4月から始まる「みえ森と緑の県民税」は、森の整備をすることに使うが、木や森が果たしている役割を知ってもらうことにも活用していきたいと思う。

観光のプランを練るのに、市や県、市民がそれぞれでやっていたらもったいないので、連携できるようにしていきたい。

予算の使い道や額、回数は、現場で調整させてもらっている。いろんな分野を減らさざるを得なくなっている状況なので、ご理解いただけるとありがたい。



【「くまの花いっぱいネットワーク」の皆さんとは】

会員同士協力し合い、花によるまちづくりに関する情報交換を活発に行うことで大きな輪をつくり、“花いっぱいのまち・くまの”を目指している団体の皆さんです。